

## 山梨県警備業協同組合

## SL列車の警備を共同受注

ACTIVE KUMIAI

春の大観光キャンペーンで38年ぶりにJR中央線にSL列車が復活したが、山梨県警備業協同組合でこの列車運行にあたっての警備を共同受注した。

SL列車の営業運転は4月1・3・6・12・13日の5日間で延べ14往復したが、組合では3月25日の試験運転から、SL待機場所、駅構内、沿線の跨線橋や踏切などに、延べ1,322人の警備員を派遣した。特にSL復活初日となった4月1日には197名の警備員を派遣するという組合の共同受注警備としてはかつてない規模となった。

組合でおこなっている共同受注警備は、5日信玄公まつり、12日いちのみや桃の里マラソン、13日南アルプス桃源郷マラソンと4月初旬は特に日程が集中しており、その合間をぬっての大規模な共同受注であった。

組合の山田事務局長は、組合員16社で1,200名あまりの警備員がいるが、交通誘導や駐車場整理などの通常の警備業務に従事している者もいるので、その中から一度に200名近い警備員を派遣することは大変難しい。今年1月に受注が決まってから、各社の責任者による打ち合せを何度も開き要員計画の練り直しをおこない準備にあたってきた。組合員各社の協力があってこそ成功できた。」と語ってくれた。



甲府駅での警備の様子



春の甲斐路を疾走するSL

組合は短期間で大人数の警備員の派遣が必要となる業務を共同受注としているが、これまでの共同受注警備に加え、昨年9月には御殿場の富士スピードウェイで開催されたF1日本グランプリの交通誘導警備の受注にも成功している。昨年11月には関東経済産業局から官公需適格組合の証明も受け、共同受注拡大にむけて、組合員の協力のもと積極的な事業展開に取り組んでいく。